

「駆け込み需要」 西村

消費税率が10%に引き上げられました。キャッシュレス決済を対象とする最大5%のポイント還元がはじまることもあり、増税前に買うか？それとも10月以降か？迷われた方も多かったのではと思います。私もあれこれ迷った1人ですが、やっぱり必要なものは買っておこうと、化粧品や店頭の小トイレットペーパーなど買ってしまいました。そして迷って悩んで買ったのがエアロビクス用の赤いシューズです。今年の健康診断で体重増加を指摘されジムに通い始めました。生まれて初めて挑戦したエアロビクスは、自分でも情けないくらい動きについていけません。でも、80年代～90年代のディスコサウンドに合わせて、必死に体を動かしている時間は、日中の嫌なことを忘れて頭の中は無の状態。終わった後は体も心も汗を流してスカッと心地よい爽快感が味わえます。また温泉に入り帰ってから飲むビールの美味しいこと。食欲の秋で体重増加に気を付けなければと思うこの頃です。



今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【関係人口】

ある地域やその地域の人々に多様かつ深く関わる人の数のこと。出身者や縁戚者、仕事や用事で何度も通っているなど相当な関りがある人を指し、地域に移住した「定住人口」や観光に来た「交流人口」と区別している。地方が人口減や高齢化により地域運営の担い手不足に陥る中、地域外の人材が地域振興の担い手となることを期待されている。総務省では、関係人口の増加を目指す地方公共団体を支援するモデル事業を手掛けている。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

話せば分かる「犬養毅」



日本の政党政治の確立に尽力し「憲政の神様」と呼ばれた犬養毅は1855年、現在の岡山県岡山市で庄屋の家に生まれました。幼少の頃から勉強熱心で、父の病没後14歳で私塾を開いて自立を志します。しかし、学問への情熱を抑えきれず20歳で上京すると、新聞に記事を寄稿して収入を得ながら慶應義塾に学びます。22歳で西南戦争の従軍記者として赴くと、戦地の生のレポートが好評でジャーナリストとしての高い評価を得たのです。27歳の頃に大隈重信が結成した立憲改進黨に参加し、東京府議会議員に補欠当選して政界に転じます。そして国政に出たのは35歳。第1回衆議院議員選挙で当選して以来、連続で19回当選しています。所属した党はいずれも野党でしたが、これは毅が不正を嫌う清廉潔白な性格であり、政権獲得のための安易な妥協をしなかったことにも起因していたようです。議会政治を貫き、普通選挙の実現を唱え続けた毅の念願がかなったのは70歳のときでした。一度は政界を引退しますが、深刻な不況と軍部の台頭で不安定な状況の中、76歳で内閣総理大臣に就任します。軍事よりも経済や産業を重視してアジア各国の平和に尽力した毅でしたが「五・一五事件」により生涯を閉じます。襲ってきた青年将校に言ったとされる「話せば分かる」には、言論人として生きた毅の生き様が現れているようです。

今を生きる
先人の言葉

念ずれば花もさく

仏教詩人である坂村真民の言葉。ただじっとお願いをしていれぱうまくいくという意味ではない。何事も祈るように努力をすれば、夢や目標はかなうということだ。

トレンドを斬る!

家族や仲間たちとにぎやかに食べるのではなく、1人で焼肉を楽しむ人が急増しています。近年、登場した「ひとり焼肉」の

専門店ではパーテーションで区切られた席に自分専用の無煙ロースターが1台、好きなメニューを好みのタイミングで焼いて食べるスタイルが好評です。水やおしぼりは席に完備され、タッチパネルで注文し会計で席を立つまで約30分と人件費を抑えたファストフード店仕様ながら、肉の種類や鮮度はこだわるといふ緩急をつけた戦略で拡大中です。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント:【シンプルなごちそう】

優れた経営者の中には、ひそかに茶道の心得のある人が少なくないと聞きます。400年以上も続く究極のおもてなしの心として世界にも知られている茶道。その本質は、亭主（主催する人）が一期一会の精神で正客を



おもてなしすることです。茶道の世界観に経営者としての道を求めるのは、ごく自然なことかもしれません。茶道の創始者ともいえる千利休が説いた茶道の在り方に「利休七則」があります。

一則、茶は服のよきように点（た）て（相手の状況や気持ちを考えながら心を込めて茶を点て） 二則、炭は湯のわくように置き（的確に誠実に準備を行い） 三則、夏は涼しく冬は暖かに（相手が心地良いと感じるようにもてなし）

四則、花は野にあるように（本質を見極め） 五則、刻限は早めに（心にゆとりを持ち） 六則、降らずとも雨の用意（万全に備え） 七則、相客に心せよ（お互いを尊重しあう）

つまり利休七則とは人をもてなすときの心得です。今さらと思った人もいるでしょうか。まさにそんな逸話があります。ある日、弟子が茶の湯の極意を求めてきたので、千利休はこの七則で答えたそうです。すると弟子は「それくらいのことなら私もよく知っています」と言ったそうですが、それに対して千利休は「七則ができるなら、私はあなたの弟子になりましょう」と返したそうです。日本人は古来より



「和の心」を大切にしてきました。けれど「相手のため」や「尊重しあう」といったことは、ただ自分を相手に合わせていけばいいというものではありません。例えば、炊きたての白いご飯、おみそ汁、お漬け物の組み合わせはシンプルにしてある意味、最高のごちそうです。とはいえ、この3つを全て混ぜてしまったら、それぞれの味も組み合わせのバランスも台無しです。ご飯はお茶わんに、おみそ汁はおわんに、お漬け物は小鉢に入れて、それぞれの器がひとつのお膳に収まってこそその「ごちそう」です。大上段に構えなくても、身の回りに今すぐできる小さなことはありませんか。商売は「シンプルなごちそう」でありたいものですね。

トナリの

本棚



【希望の糸】

東野圭吾の人気加賀シリーズのスピノフ的な作品です。喫茶店を営む女性が殺され、常連客の男性が容疑者となる。災害で子どもを失った彼の人生を追う若い刑事。その若い刑事の父親の話も重なって「家族」を深く考えさせられる作品です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております☺☺☺☺☺☺